

## 岡山県

## ワークショップを通して今後取り組む2つの目標を設定

### 支援概要

#### ■支援の経緯

岡山県M市にあるY温泉は1200年の歴史があり、湯治の場、賑やかな温泉街を経て、近年ではレジャー・スポーツの拠点として健康リゾートという形へ変化を遂げている。近年、年間観光客数が年々下降し、1988年のS大橋開通時に比べ、およそ半数まで減少した。今制度を利用して毎年減り続けている観光客を増やし、特徴あるY温泉として見直していきたい。今回、支援を要請したF氏は観光マーケティングや地域ブランディングなどを専門としている専門家である。今回の支援を観光客を増やすきっかけにしたい。

#### ■専門家による具体的な支援内容

現状を把握するために温泉街を視察した。その結果、①各組合、旅館・ホテルの意思統一ができていない②観光客が減少している原因が多く、優先順位の整理ができていない③食事に特徴がなく、名物や土産物がないという3点の課題があることがわかった。これらを改善するために、各組合、旅館・ホテルのメンバー全員でワークショップを行い、意思統一を図った。その上でまずは取り組みやすい成功事例を作り、ひとつひとつ実現していくことを提案した。

具体的には①女将との歩きツアーを創設し、時間やコースを決定、ツアーオプションとして選択できるようにする②スポーツ選手やスポーツクラブに配慮した食事メニューの開発ではY温泉へのアクセスの利便性を高めるための補助事業を活用し実施することと、代理店を使ってのスポーツクラブへの営業の強化を行うことを提案し、目標とすることを助言した。

### 支援の効果

専門家の支援により問題点が可視化され、今後対応していくことが明確化された点が収穫だった。今後は今回支援を受けて決めた2つの施策を実行し、検証、改善を図り、観光客を増やすために行動していきたい。

### 専門家の声

「よい部分」が活かしきれておらず、非常にもったいない状況だったが、優先順位を明確にしたアクションプランを立てたので今後はこれを中心に行動していくことを期待したい。また実態把握の共有はできたが、財源やマンパワー-官民連携の体制面についてはさらなる話し合いが必要である。

### 団体の声

これまで意識してこなかった多くの問題点に戸惑いもあったが、様々な発見があり、有意義だった。すぐに個々の意識を変えていくのは難しいが、柔軟性を持って様々なことを取り入れていきたい。今後もこのような機会を設けてほしい。